

がん患者団体との連携の現状

アンケート調査から

大阪府がん診療連携協議会
相談支援センター部会

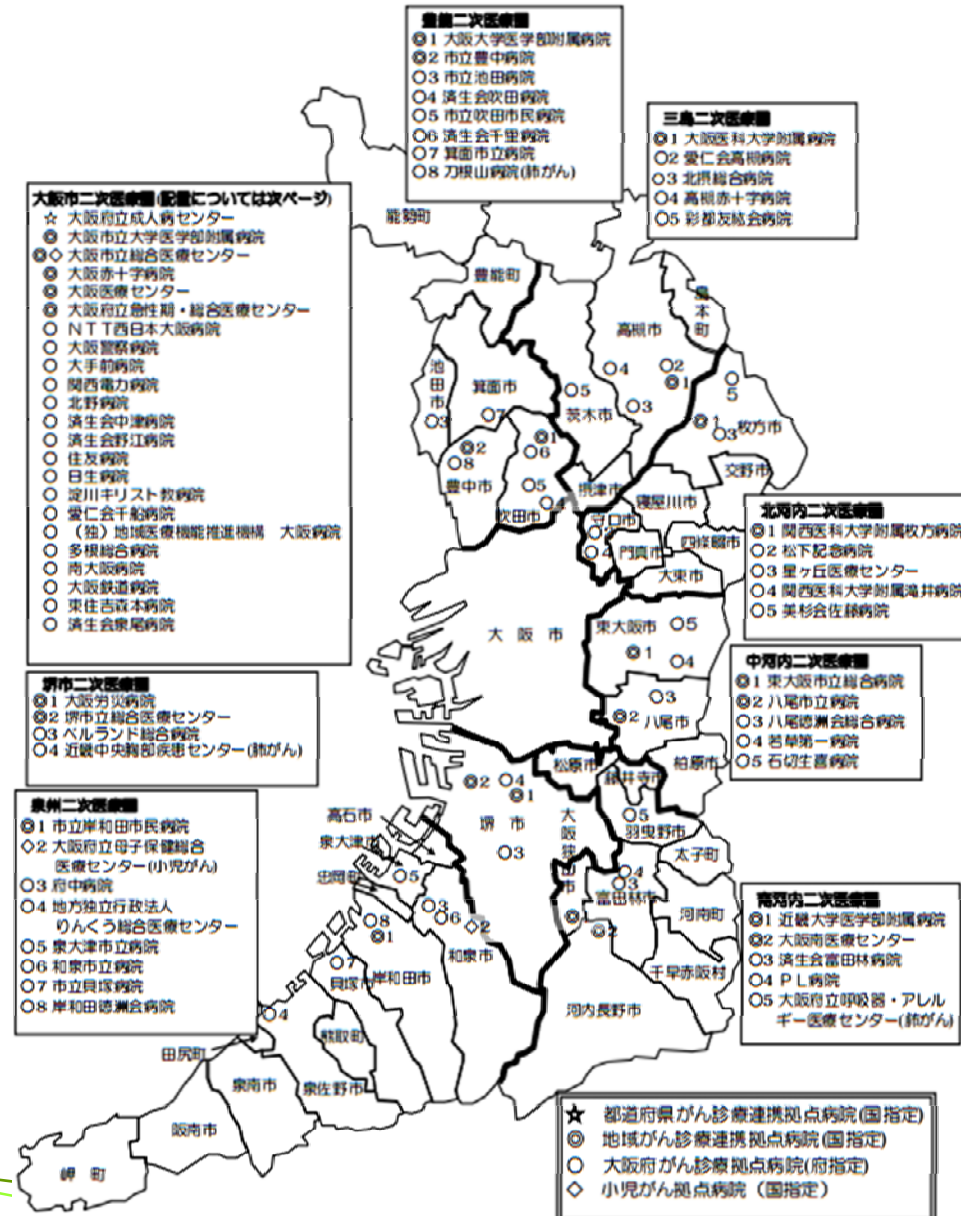
2016.01.23sat 平成27年度 地域相談支援フォーラム in 近畿

大阪府のがん診療連携拠点病院

国指定…18
(小児国指定含む)
府指定…45
(5大癌指定含む)

合計：63施設

**拠点病院数
全国いち！**



大阪府の拠点病院の現状と背景

拠点病院数、日本一であるのは、強みだが…

- ・ 拠点病院間での情報共有や連携が難しい。
- ・ 相談支援部会は、さながら講演会の様相。
- ・ 全体で何かを協議することも、意見交換も簡単ではない。

サロン・患者会に関する相談は寄せられている。

- サロン・患者会に関する情報の共有ができていない。
- 情報は、インターネット検索やそれぞれの問い合わせに頼っている状況。
- 信頼できる情報、の定義も難しい。
- それぞれの施設の連携状況も、モチベーションも不明

「がん患者団体との連携」

よりよい連携関係を構築
したいけれども

がん患者団体との連携を推進しよう！

だけでは進まない現状
(ほかの連携もしかり…だが)

まず、知らなければならないのは…

がん患者団体との連携の現状 相談員の率直な気持ち

「がん患者団体との連携」

大阪府における がん患者団体との連携の現状 に関するアンケート調査

「がん患者団体との連携」に関する調査

[目的]

相談員の患者団体に対する思いを汲みあげることによって、連携構築の一助とする。

[対象]

大阪府内がん診療連携拠点病院に所属するがん相談員実務者（約330）

[方法]

相談実務者個人へのアンケート調査

率直な思いを聞かせるため、所属や個人が特定できないインターネット内調査とした。

部会の取り組みとして、拠点病院の連絡メール、相談実務者のメーリングリストを通して協力を依頼。

「がん患者団体との連携」に関する調査

[内容]

院内) がん患者会・サロン	院外) がん患者団体
連携に関する考え	
活動状況 (主観的評価)	知っている団体数
相談員の関わり	
連携を促進する要因	
連携を阻害する要因	
印象	

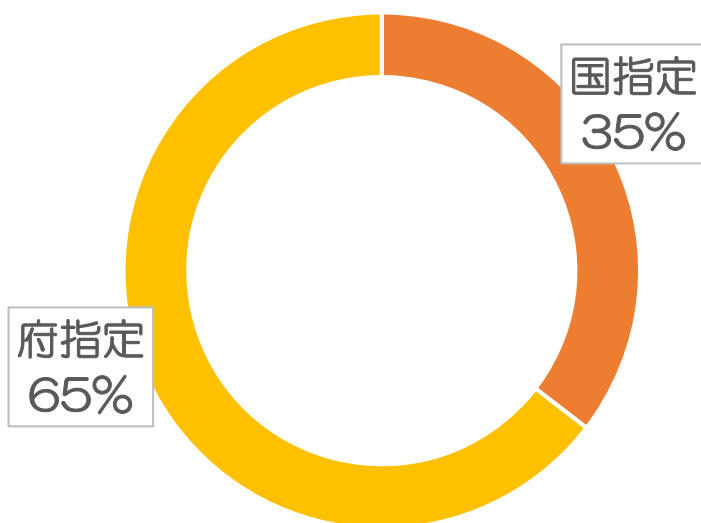
「がん患者団体との連携」

大阪府における がん患者団体との連携の現状 に関するアンケート調査

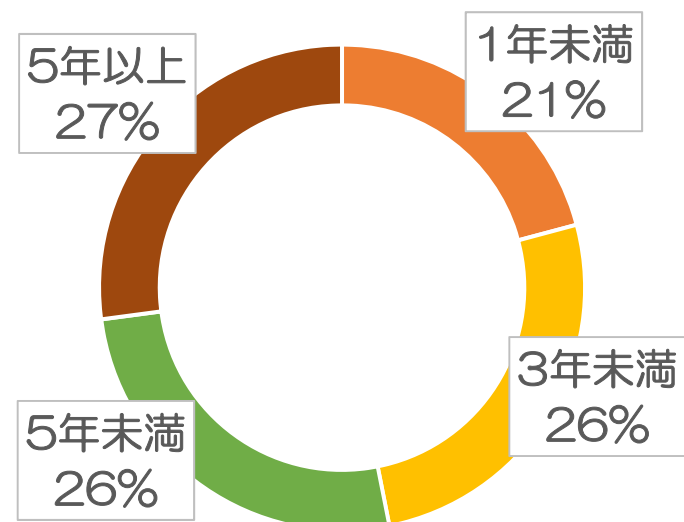
[結果]
n = 96

回答者の属性

所属する機関

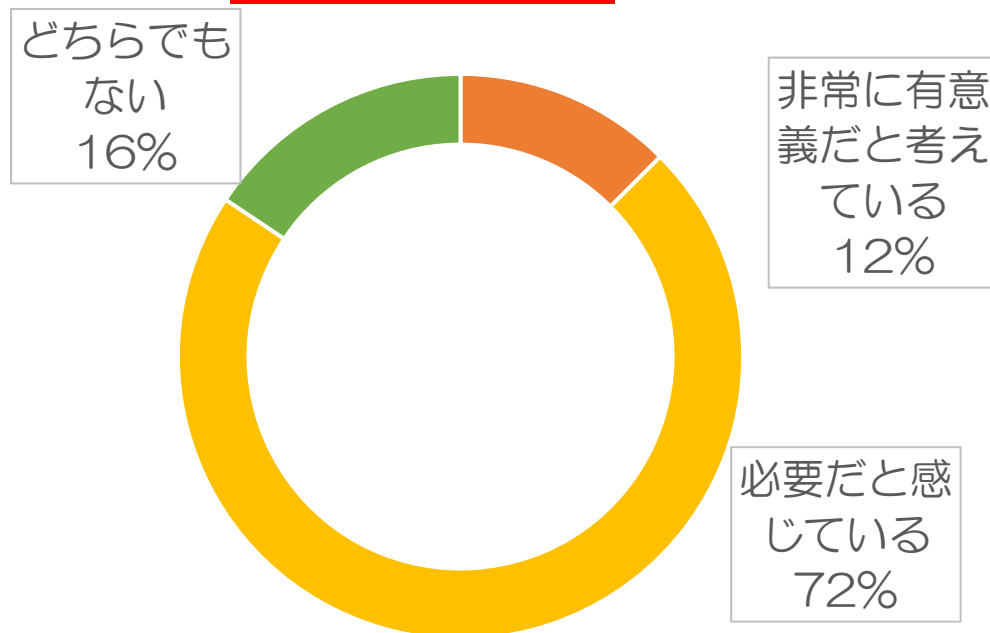


がん相談配属年数



(院内) がん患者会・がん患者サロン

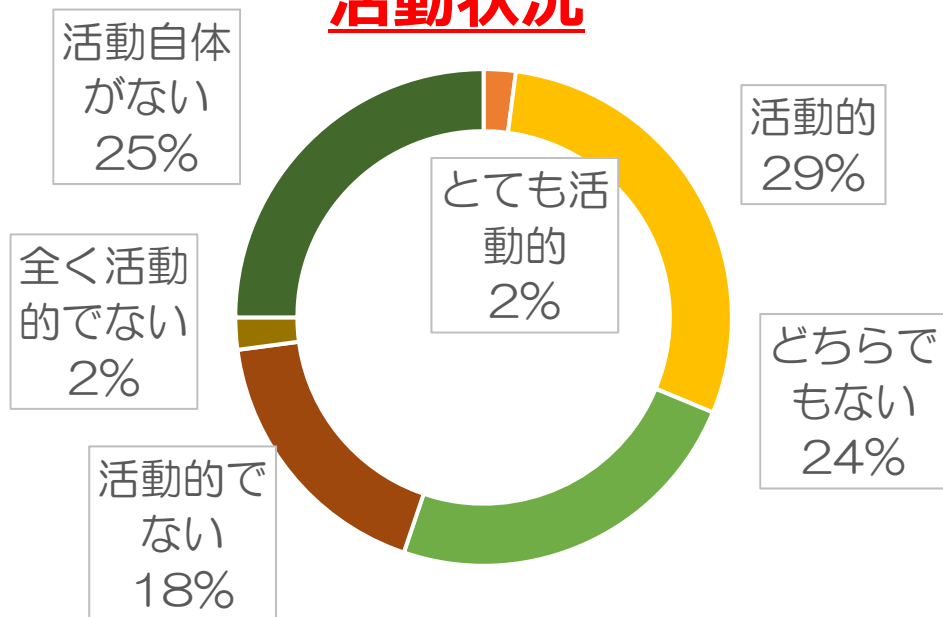
連携への考え



非常に有意義だと考えている	12
必要だと感じている	69
どちらでもない	15
必要とは思えない	0
関心がない	0
むしろ、相談業務を圧迫している	0

(院内) がん患者会・がん患者サロン

活動状況



ここ1年の関わり



(院内) がん患者会・がん患者サロン

連携を促進する要因



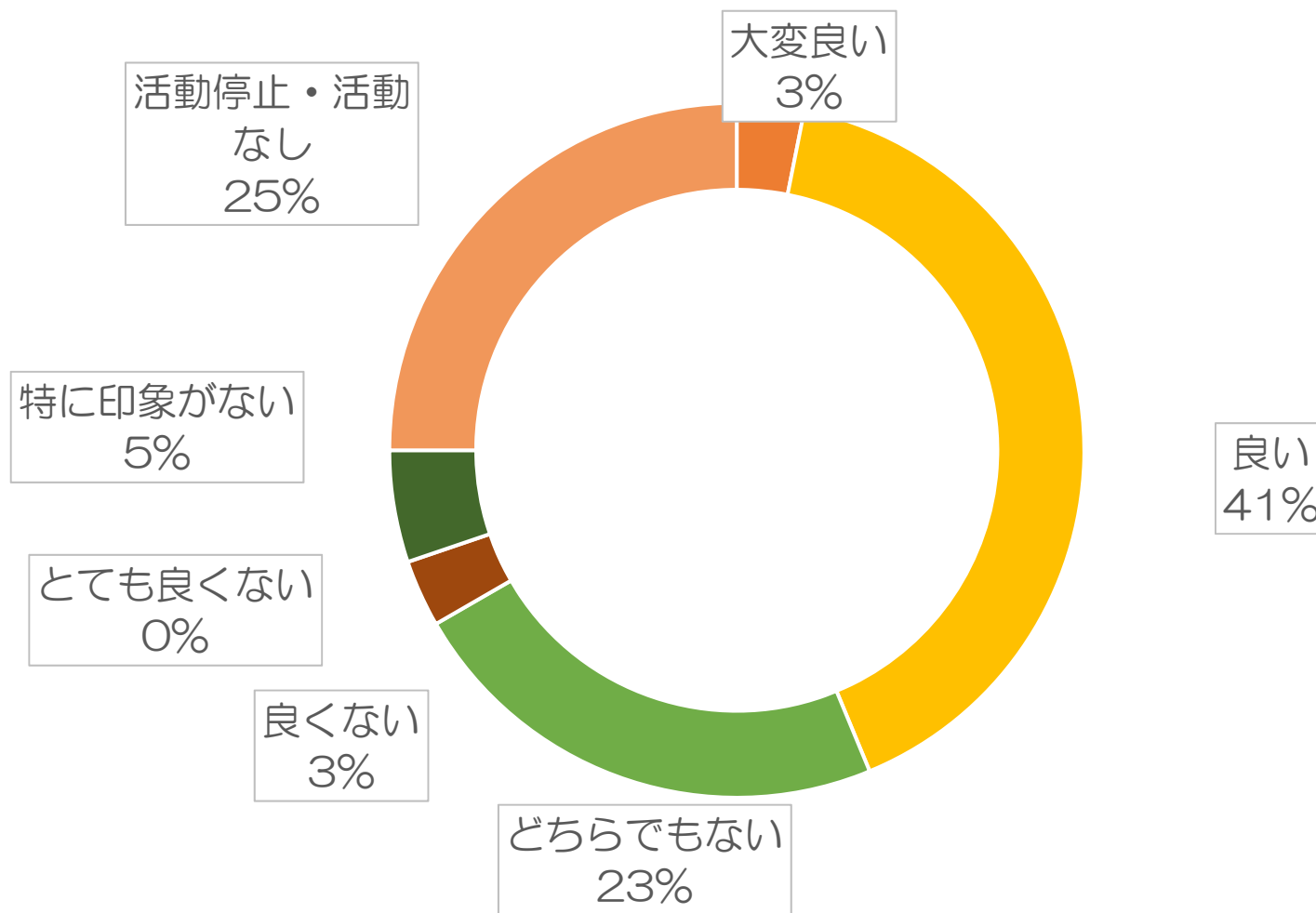
(院内) がん患者会・がん患者サロン

連携を阻害する要因



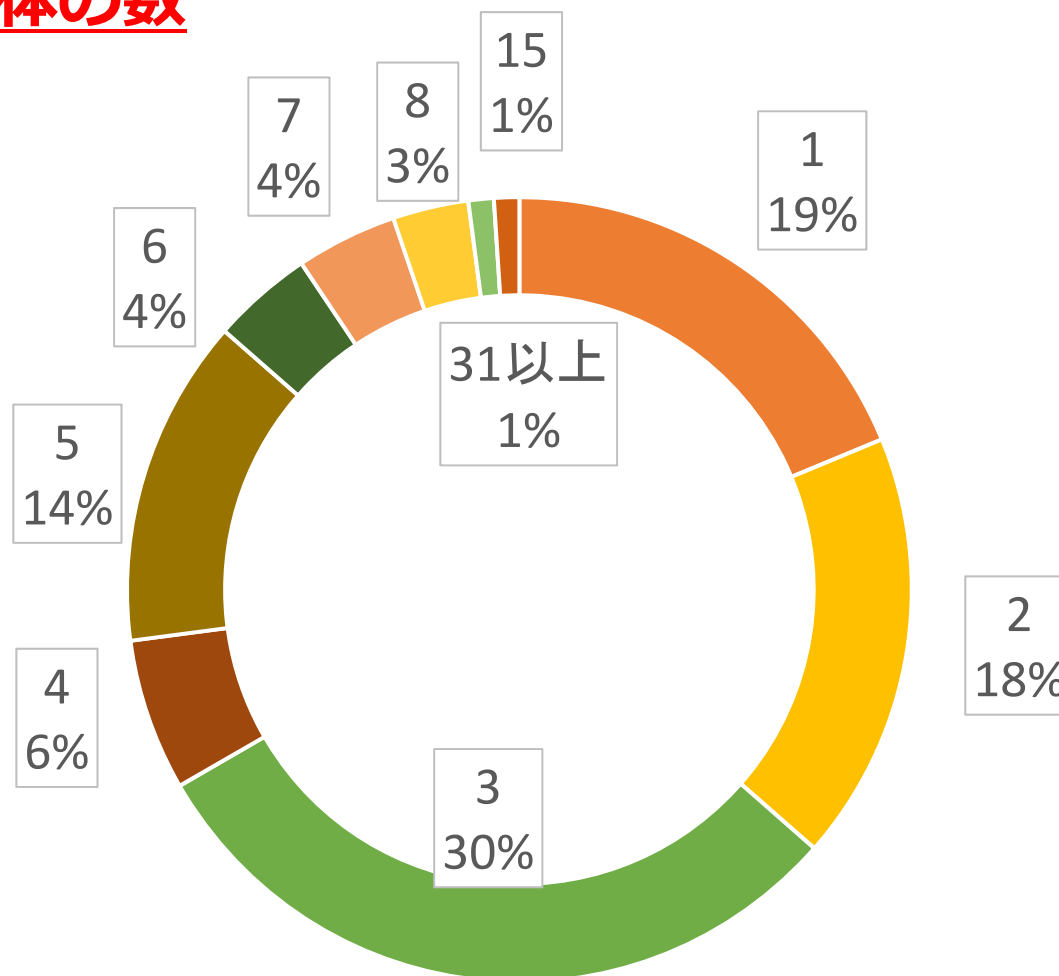
(院内) がん患者会・がん患者サロン

患者会・サロンへの印象



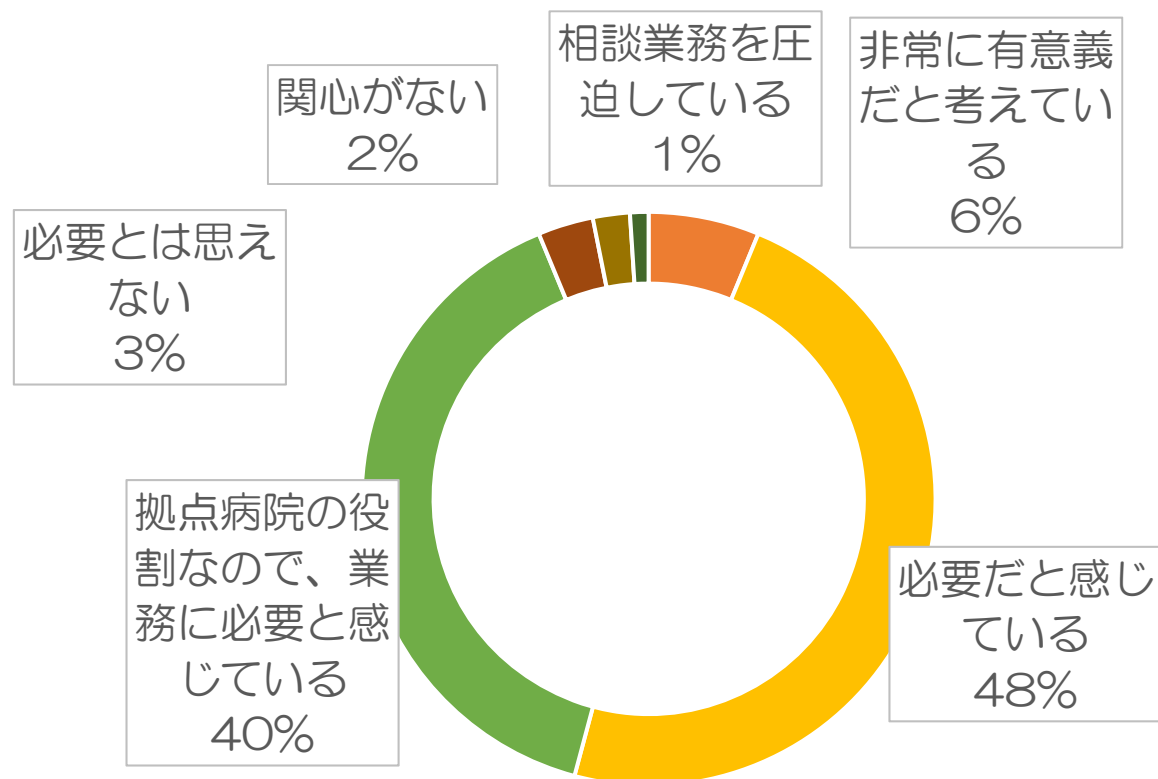
(外部) がん患者団体

今、思いつく団体の数



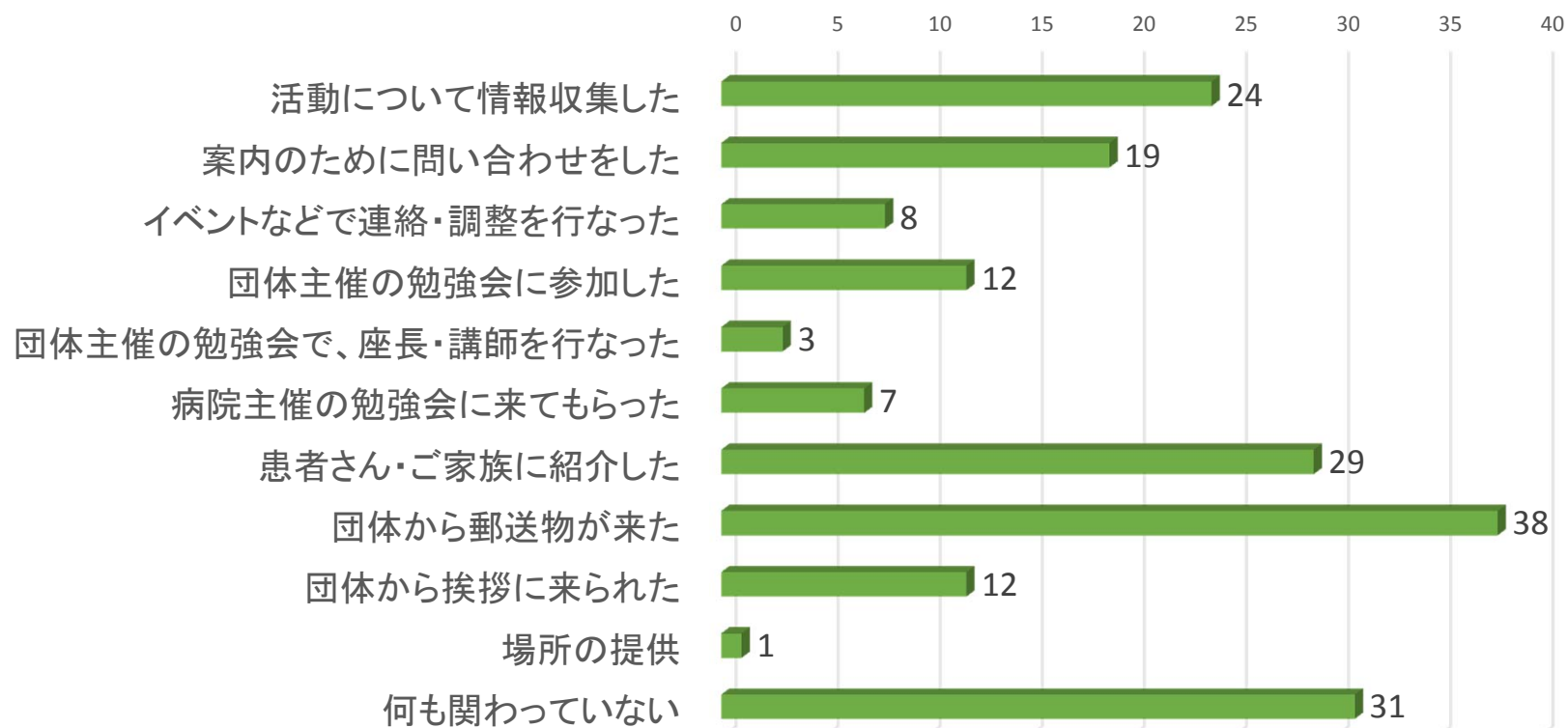
(外部) がん患者団体

連携への考え



(外部) がん患者団体

ここ1年の関わり



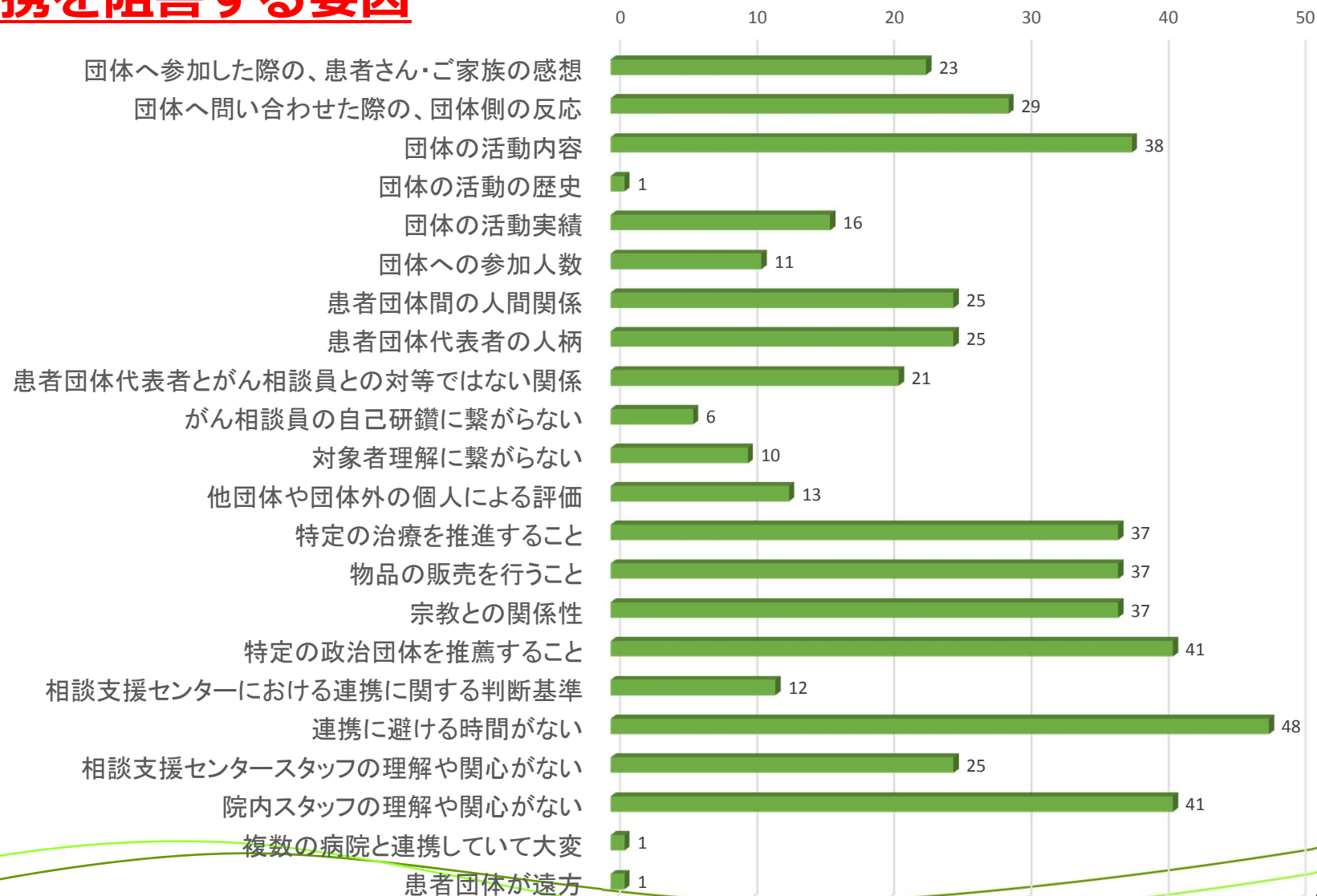
(外部) がん患者団体

連携を促進する要因



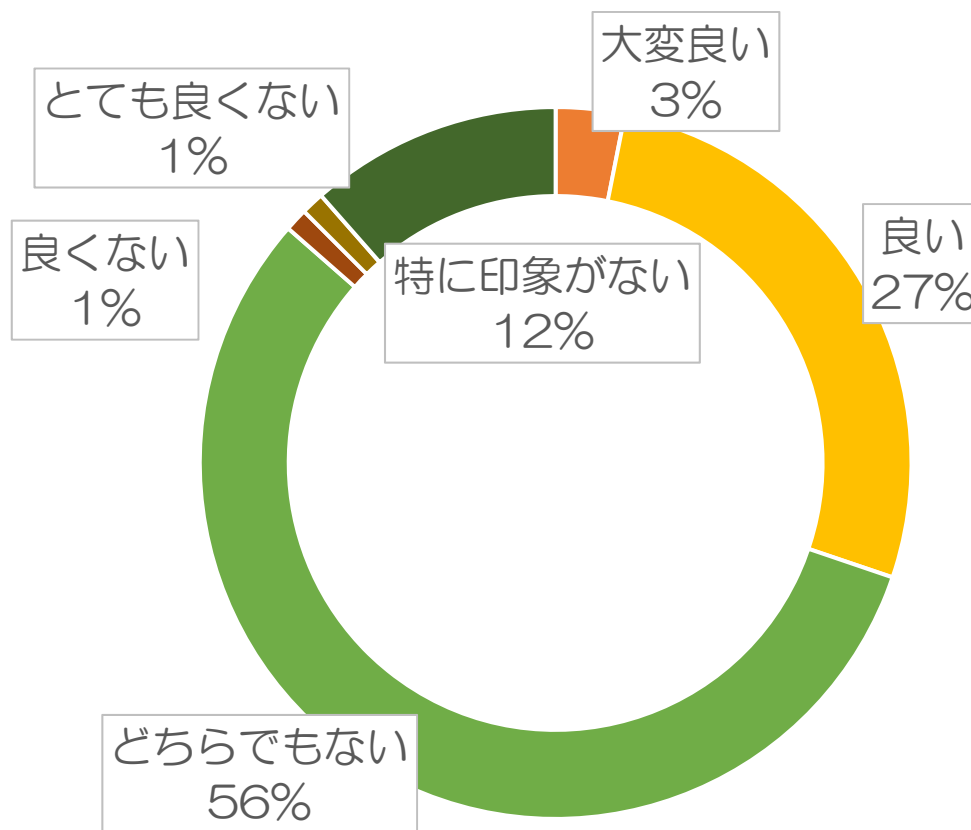
(外部) がん患者団体

連携を阻害する要因



(外部) がん患者団体

がん患者団体院内の印象



[結論] 院内) がん患者会・サロン

0 10 20 30 40 50 60 70

- 連携については、84%が必要と感じている

- 活動状況は、活動的だと感じているのは31%に留まり、参加者の継続性や、コアメンバーとなる参加者の主体性が、連携の促進要因にあがっている。

- 連携の促進要因、阻害要因ともに、
 - 院内スタッフの理解や関心、
 - 連携に関する時間がさけるか、と感じている相談員が多い。

[結論] 院外) がん患者団体

0 10 20 30 40 50 60 70

- 連携については、94%が必要と感じているが、この1年、何も関わっていないのは32%
- 最も多い関わりは「団体からの郵送物」で40%
思いつく団体の数は、1～3団体が、67%
- 「特定の治療を推進する」「物品の販売を行う」「宗教と関係がある」「特定の政治団体を推薦する」については、連携の阻害因子として顕著に表れている。
- 連携の阻害要因は、
 - 院内スタッフの理解や関心、
 - 連携に関する時間がさけるか、と感じている相談員が多い。

今後の展開

■ 院内がん患者会・サロンとの連携

相談支援部会としては、院内スタッフの理解や関心の向上、相談員が連携に関する時間を持てるよう、今後取り組んでいきたい。

■ 院外がん患者団体との連携

数多く存在するがん患者団体の実情を把握することも、信頼できる団体の評価方法も、容易ではない。

「活動の実績」「活動の内容」如何により、連携の促進・阻害いずれの要因にもなり得る。まずは患者団体について「知る」ことを課題に、部会と患者団体との協同についても検討していきたい。



ご清聴、有難うございました。

大阪府がん診療連携協議会相談支援部会一同